

本日
野球文獻解題

齋藤三郎編

序

日露戦争の起る少し前、小学校へ入つて間もない頃であつた。ネット裏で球拾ひをしてゐるとこゝへ飛んで來たファウルボールをガムシヤテに掴み、高等科の選手にホメられたのが病みつきで、私は今でも床さへあればボールを握りバットを握り廻すことを何よりの樂みとしてゐる。

その頃私は、野球を「人間鍛冶」の一つ法として教へられた、従つてその練習方法の如きも全然スペルマ式そのものであつた。鉛の芯の入つた石のやうに堅い球を捕手と一塁手を除く外は全部素手で猛烈なノックを食つたものである。それよりも辛いのは七八間の距離を置いて力一杯に投げ合ふ素手対素手のキヤッチボールであつた。暖いうちは左程とも思はなかつたが、大根畠に霜柱が立ち趨後焼の連山の樹々が血で染めたりになると、紫色に腫れ上つた左の掌とムチャクチャに投げきつた右肩の針を射すやうな痛みに眠れぬ夜が多かつた。それでも誰一人やめる者がなかつた。學校の名譽ある歴史の馬に自己を剥して外敵と闘ふことが選ばれたる者の執るべき當然の義務なりとの信念を確信してゐたからである。高等一年（現在の尋常五年）の秋、赤明に學校を出発、九里の道程を徒步で湯田中に遠征し、翌日の郡下大會に出場、見事霸權を獲得

するこすゞその足で七里ある野澤温泉に旅り、その翌日村境に出迎へてくれた全校生に撞せられたの凱旋行などは恐らく空前の強行軍と噂せられただけに又と得難い少年の日の追憶である。

このやうな難行苦業ではあったが、今にして思へば野球校は私達にとつて心身鍛錬の苔であり、球場は実に人間修業の道場であつたのである。後年私をして野球文庫の設置に依る……文献を基礎とする野球発達史の研究……に思ひを致させた動機は實に野球報恩以外の何ものでもない。

本書は私の野球書萬葉十五年間の収蔵中、明治大正期に於ける單行本の一切に多少の見廻を加へそれに簡單な註釋を施したものである。尙本書は私自身のメモ代りに書付けて置いたのをその儘印行したので甚しく不満な笑を認める、而も猶印行を急いだのは、野球創始壹百年と、編者自身の第四十五回誕辰を記念せんとする幾處に他ならない。

最後に私は、衆多の貴重なる文献を後代に遺された先覺者諸氏に對し深甚なる敬意と満腔の感謝とを捧げたいと思ふ。

本邦野球文獻目録

齋藤

三郎

文部省

文部省教育品陳列場出品目録

明治十四年三月第二回内國勵業博覽会ニ際シ文部省が出品セルモノ、目録ニシテ、其十四頁所載「体操練習所出品」中ニ

第三十六號

户外遊戯器具類

（中略）○ベースボール

球四個、

打珠棒二本一組（價壹圓四拾錢）神田糸屋町一丁目渡邊徳次郎製。トアリ、或ハ此種文獻ノ囁矢ニ非バヤト思ハル。尤モコレヨリ光明治十二年「体操及戶外遊戯ナルモノ、文部省ニ依リ發行サレタクト傳フルモノアレド、果シテ該書中ニ「ベースボール」が引用紹介サレタリヤ否ヤ、何分ニモ未思故断定シ難シ。（發行年月日不明）

OUTDOOR GAMES

エフ・ダブリュー・ストレンジ。

明治十六年六月十一日出版 出版人

丸家善七。

全三十四項目ノ中、三十七頁（四十七頁迄）「BALL」ノ紹介ニ努メ

(二)

タケ。著者ハ東京大学練習門御座教師（英人）ニシテ、本邦学生ノ未ダ体育方面ニ目覺メザルヲ概シ、所謂戸外遊戲ノ一斑ヲ紹介指導セルモノ。即チ此種文献ノ先驅ラナセルモノトシテ注目スベシ、氏ハ亦一高野球部ノ始祖トシテ名アリ。因ニ本書ハ奥附ヲ除ク外全部英語ニテ綴シリ。

洋戸外遊戲法

大学教授寺尾壽校閲 下村泰大編輯

明治十八年三月出版 発賣所 博文社・丸善書店

泰盛館藏版

前記「ストレンジ氏」著「アウトドア・ゲーム」ラ骨子トシ、其ノ他ノ諸書ヲ參照折衷シテ抄譯録セルモノ、○「ベース・ボール」ヘ打球右にごつこ一ノ部ハ、第二十五頁ヨリ四十四頁迄。蓋シ本邦人ノ著述トシテ最古ノモノカ（斯種文献ノ）

戸外遊戲法

一名 戸外運動法

明治十八年四月出版 金巻堂発売

前書ニ後ル、コト僅力ニ一ヶ月ナレド、其ノ用意ノ周到ナルト説明ノ懇切ナルハ前者ノ比ニ非ズ「ベースボール」（打球）一程一ノ部、六十六丁ヨリ

九十五丁追。球戯場圖、ペー^ススホール勝敗表、打球之圖等印入。初期文獻
トシテ最モ内容充実且ツ興味深キモノ。

野球部史附規則

第一高等学校校友會野球部編

「野球」ノ呼名が始メテ造ラレタルハ實ニ本書編纂ノ時ナリシナリ。即チ編
者中馬庚ガ例言、一節ヲ引用スレバ

廿六年七月伊木常識氏我部史ヲ編セシコトヲ余ニ謀ラル、余モ亦聊茲
ニ意アリシラバテ（中略）廿七年一月ヲ以テ起稿シ同年十月ヲ以テ漸
々脱稿セリ。（中略）我部ノ專門語ニ至リテハ今日ニ當リテ速力ニ適
當ノ試語ヲ定メズンバ、底球又ハ第一園第二園等ノ奇語生ジテ慣例遂
ニ定語トナランコトニ恐シシカ故ニ、未だ我部ノ評決ヲ経スト室トモ
余ハろんてにす部ヲ底球トシ我部ヲ野球トセバ大ニ義ニ適セリト信ジ
テ表題ハ野球部史ト恩シ（下略）

明治二十七年十月二十八日

中馬 庚 識ス

因ニ、本書ハ日本ニ於テル野球發達ノ交遷ヲ知ラントスル者ニトリテ絶對
不可缺ノ文獻。

(四)

ベーチボール術

ART OF BASE-BALL PLAYING

在帝國大學 高橋慶太郎君編

明治廿九年七月十八日 東京 同文館發行

恐らく野球書トシテヘ單行本一 本邦最初ノモノデアラウ。少クトモ從來ノ野球関係目録ニ當テ見十カツタモノデ、菊半載四〇頁、片々タルモノデアルガ卷頭ニ掲ゲタル「遊技者之姿整」ト坤画「遊技器具之圖」ハ珍重スベキ記録デアル。

野球

第一高級学校運動会幹事
第一高等学校審判官

中馬庚

明治三十年七月三十日 大阪 前川善兵衛發行

① 一高式野球ノ元之卷デアルバカリデナク実ニ球史以來最モ完成サレタル劃期的文献。著者中馬庚氏ハ前一高選手、野球研究家トシテ愛好家トシテ屢々野球愛護ノ筆ヲ揮ツテ居ル。本書ノ第一版ハ本文ニ百五十三頁デアルガ三十五年十月發行ノ第八版ハ、野球大家青井誠男增補トナツテ居リ三百七頁ニ増加シテ居ル。茲ニ注目スベキハ著者ノ序言トシテ

野球ハ北米ノ國技ナルカ故ニ彼國ノ書ヲ參考スルラ至當トスルカ如クナルモ昨年本横濱外人ト社合スルニ当リテ彼ノ爲ス所ク見ルニ彼我共

特長ヲ異ニスルカ如シ故ニ本書ニハ一モ被レ、著書ヲ参考セズ、數年

シノミナク。云々

数年

前ヨリ時々手記セルモノヲ第一高等学校ノ搜手諸氏ト商量シテ潤滑セシノミナク。云々^{シノミナク。云々}
、鐵見ト其ノ驚異スベキ努力デアル。

式新
ベースボール術

工學士

高橋 雄次郎著

明治三十一年六月三十日

四海堂発売

珍ラシクモ言文一致ラ以テ綴テ、易ナ解説書。本書ノ最モ特異トスバ
キ点ハ「用球」、「用棒」、「脚面」、「ミット」及「グローブ」等、製作工程
ヲ詳細ニ説明シテマルコトデ、前後ヲ通シ唯一ノモノデアル。解説圖廿三。

内外遊戯法

日用百科全書 第三十編

(編者不明)

明治三十一年六月二十三日

博文館発売

本文二百三十六頁ノ中「ベースボールの部」(野球)十九頁ヨリ廿四頁迄。

ベースボール・アートボール案内

今井 信三著

明治廿一年八月五日

松翠館発売

(六)

野球規則

山口高等學校野球部

野球之部本文三十七頁。巻頭ニ「野球遊技場圖解」挿入。内營（内野）外營（外野）投球所へ投手板一打球所へボックス等ノ名稱ハ珍奇。

独立シタル「ルール・ブック」トシテノ噶矢。準備、綱領、伏線、眞隨附錄ノ五項ト第十章マデノ細節半分チテ説明。

新ベースボール術 大日本体育會教授・高橋忠次郎・依田直以・小野泉太郎合著

明治三十二年八月十五日

岡崎屋書店發行

本壘附近之圖（打者・捕手・審判官）用具（ミット・キャップス・ベースメンツ・ミット・ファイル・ースグローブ・マスク・フラグ・ベース・サスペンソーリー等ノ押画ハ好適，参考資料。

ベースボール及クリッケット 内外遊戯全書第三萬・工科大學 津田素彦著

明治三十二年九月廿六日

博文館 発行

全篇ヲ物語風ニ記述シ、初心者ノ爲ニ便ナラシメテキル矣が注目せしル。

野球叢談

工科大學 高橋雄次郎著

明治三十二年十月廿日發行

四海堂發行

同ジ著者ニ依リテ前二卷行サレシ「新式ベースボール術」ノ訂正補遺版ト
モ称スベキモノ。

野球年報發行の旨意

伊東卓文編

明治卅四年度野球規則

明治卅四年九月廿五日

伊東卓文發行

口絵写真 野球大家・青井鉄男君之肖像 外寫真八頁併入。

実験遊戯全書

在帝國大學 永島小蝶編纂

明治三十四年十月五日

共盈館發行

本文二百四頁ノ中「野球術之編」二十七頁ヨリ四十一頁迄。

ベースボール術秘訣

工學士 高橋雄次郎著

明治三十四年十月廿三日

四海堂發行

同上著者ニ依ル「野球叢談」ノ改題版、一高ノ不正用球曝露記事アリ。

(八)

ベースボール術

日本體育會教師 高見澤宗藏君 烏鵠英次郎君著

明治三十五年十月四日發行 尚榮堂藏

一拳二十數年ヲ逆行シタラン如キ怪シゲナル著述、例ヘバ「バット」ハニ
スラ超ユベカラズノ如キ、ワンバウンド、キヤッチ、アウトノ如キ、スリーボ
ール制ノ如キ皆其一例ナリ。謂フ所ノ日本體育会ナルモノ、本体ハ今遂ニ
知ルラ得ザルモ、恐テク一種ノ喰ハセモノナリシナルベシ。

野球年報

(明治三十五年)

第一號

明治三十五年九月廿八日 伊東卓夫發行

傳聞スル所ニ依レバ、本野球年報ハ米國「スバルデイング」、「ガイド・ブック」
テニ做ヒ前記青井鉄男氏其他主トシテ一高野球部關係ノ人々ノ懲懲ニ依
リ發行サレタルモノニシテ、明治三十五年度ヨリ大正四年迄(明治三十九
年ヲ除ク)十有余年ノ久シキニ亘リ遂次刊行サレタルガ、コハ前記一高閑
係者ノ外、後年ノ編輯者飛田忠順氏等ノ助力ハ勿論ナルモ、發行元美満津
商店ノ犠牲的出版ナリシ由。今ニニテ其功勞ノ偉大ナリシラ痛感セザルラ
得ズ。即チ該ニ記シテ満腔ノ敬意ラ表スル所以ナリ。

野 球 部 史

第一高等學校校友會野球部

明治三十六年二月二十八日

第一高等學校校友會

部員平野正朝ラ主トシ、莊田達弥、山内冬彦編纂)任ニ當リ、規則翻譯ハ
大塚巖寺ラ之ニ担任。附錄「野球規則及其變遷」必讀スベキ好文獻。
猶、本書ハ所謂「初期混沌時代」ヨリ明治三十五年度迄、即チ一高第二期
黃金時代迄ノ輝カシキ業蹟、集大成トシテ珍重スベキ記録デアル。

野 球 史

守山恒太郎著

明治三十六年三月四日 民友社發行

後世所謂「球神」ト呼バレ、一高中興ノ礎石タリシ守山氏が医科大學在學
中其ノ蘊蓄ラ傾例シテ後進ノ爲ニ執筆セルモノ。概シテ中馬氏ノ「野球」ト
大差ナキモノ、如クナルモ、形式ヨリモ内容ラ、技術ヨリモ精神ラ尊ビタ
ル一高式野球術、虎之巻トモ称スベキ好著。

癸卯野球試合紀念

伊東卓夫編

明治三十六年七月四日

伊東卓夫發行

(九)

一高對於繼ケニシタツキ一戰ニ於ケル一高ノ記録的快勝及ビ東京府下聯會野球試合ヲ記念セル寫眞帖ニテ恐ラク此種寫眞帖ノ嗜矢ナラン。寫眞拾遺紫ノ外日余兩軍選手寫眞繪ハカキ一葉付。

明治三十六年度野球仕合規則

編 春 不 明

明治三十六年十一月五日 (京都) 山本卯兵衛發行

編者不明ナルモ其ノ署頭ニ

第三高等學校薪水會野球部ニ於て明治三十六年十月より同三十七年六月迄左の規則を採用する事を議決セリ。

トアルラ見レバ恐ラク三高野球部ノ編纂ニ依ルモノナルベシ。

野 球 年 報 (明治三十六年) 第二號

明治三十六年十一月廿日 伊東卓夫發行

魔 球 術 尔ヘエドワード氏著・在壹高長塚順次郎譯述

明治三十七年三月二十六日發行 满津商店發行

The Art of Curve Pitching 「ゼ・アート・オブ・カーブ・ピッチング」ノ抄譯。

第一編「鷹球術」第二編「投手之注意」以上二編ヨリ成ル。力一ヅノ理
論ト実行、失敗ノ原因並ニ注意、初學者ニ向テ、暗示ノ四章ニ分チテ説明
ス。圖解統テ九、現在猶教ヘラル、所多シ。稀書之一。

野

球

年

報

(明治三十七年)

第

三號

明治三十七年十一月廿三日

美滿津商店内

野球年報編纂部發行

野球便用

愛知縣立第一中學校學友會編

明治三十八年一月二十日

愛知縣立第一中學校學友會發行

全二百三十四項目ヲ問答体ニ排列説明セリ。其ノ微ニ入り細ニ穿ツテ、無
窓ハ真ニ驚クベク、此ノ年代ニ於テ既ニ現代、所謂「科學的野球」ノ領域
ニ到達セルヲ知ル。愛知一中が永ク東海、王座ヲ占有シ容易ニ外敵ヲシテ
覗ハシメザリシハ決シテ偶然、出来事ニハ非ザリシナリ。

最近野球術

早稻田大學野球選手 橋戸 信蕃

明治三十八年十一月十二日

博文館發行

本邦空前ノ米國遠征ヲ終ヘテ歸京セル早大主將橋戸氏ガ歸來鎌倉ニ潜ム事月

(一)

餘、其ノ豊富ナル経験ニ加フルニ余國大選手ノ意見ヲ參照シ、其他幾多專門ノ書ヲ涉獵ノ結果ニ成レル好著。謂フ所ノ「科学的野球」移入ノ先駆トシテ名アルモノ。附録ニ安部磯雄氏ノ「野球ノ三徳」及「渡余日記」外ニ橋戸氏ノ「余國の野球界」アリ。

野 球 年 報

(明治三十八年) 第 四 號

明治三十八年十二月二十日 野球年報編纂部發行

運動界之裏面

運動術士著

明治三十九年七月一日 中興館發行

主トシテ野球庭球、二部ニ分チ、都下各學校體育部ノ首長ヲ叙シタリ、即チ「本邦野・庭球發達側面史」トモ称スベキモノ。

自 治 察 生 活

鳩 箭 子

附 高等學校一覽

明治四十年三月一日 本鄉書院發行

一高ノ察生活ヲ春夏秋冬ニ分チテ描寫、「夏の巻」ニ「ノックの響」ヘ對外野球仕合ノアリ、三十六年度對ケンタッキー號戰「ストインニング」ノ模

様ラ寫ス。著者、鶴箭子八郎チ野上白川氏。

ベースボール

早稲田大學野球部選手編

明治四十年六月五日

彩雲閣發行

河野、山脇、森本、押川、獅子内、田部、西尾等七選手、外安部磯雄氏、「統御法」附錄トシテ「野球競技規則」(四拾年度)及ビ安部氏、「野球の術語」アリ。

野球年報

(明治四十年) 第五號

明治四十年八月十二日

因ニ野球年報明治三十九年度ハ不刊。

野球年報編纂部發行

野球案内
BASE·BALL
安部磯雄著

明治四十年九月五日

亀井支店書籍部發行

「此書は全く野球を知らざる人の爲めに著はしたものである」と云々、ト著者が「はしがき」ノ一部デ迹ベテキルヤウニ寧ラ一般大衆ヲ目標トシテ編マレタルモノデ、今ニシテ氏ノ卓見ト並々ナテ又野球愛ノ發露ヲ知ルコ

トが出来ル。本文六十六頁。

(四一)

ベースボール・ロンティニス術

體育俱樂部編

明治四十年十二月五日 求光閣書店發行

全九十八頁ノ中、「ベースボール」ノ部五十八頁。恐らくハ前記「戸外遊戯法」（明治十八年四月發行）等ヲ其儘書直シタモノニアラウ、其ノ「バット」ノ説明ノ如キ（木製の棒にして長さ二尺を限度として）ノ如ク驚タベキ時代倒錯ヲ教テシテキル。

野球年報

（明治四十一年）

第六號

明治四十一年七月三十一日

野球年報編纂部發行

野球年報

（明治四十二年）

第七號

明治四十二年八月二十四日

野球年報編纂部發行

米國野球事情

山口龍吉著

明治四十二年八月十三日

東京堂發行

リーチ・オール・アメリカンの凌日を幾とし故國の人々に米國野球のアク
トラインを紹介しやうと全圖發行されたもの。

外國野球見物

正岡 薩陽著

明治四十三年五月十三日

博文館發行

米國・アロハエシショナル・ベースボールの平易なる解説書

野球年報

(明治四十二年度秋) 第八號

明治四十三年十月十五日

野球年報編纂部發行

現行
野球規則

慶應義塾野球部スコアラー 直木松太郎編纂

附錄・全試合記録法 BASE BALL RULES 1910

明治四十三年十二月廿四日

野球研究會發行

此種ノモノノトシテハ前ニ「山口高校野球部編・野球規則」及ビ(三十二年)
藏水會ノ「明治三十六年度野球仕合規則」(三十六年)等ノ編著アレド。
①貴ニ完成サンタルルール・ブックレットシテハ本書ヲ以テ嘴矢トスベキデ
アラウ。本文三百三十三頁、附錄百二十八頁。猶口繪寫真中、高瀬、中野、
三島各審判ノビス入子ユアハ現在ノソレト比較シテ津々タル興味ガアル。

(五一)

(六一)

布哇紀行

安部磯雄著

明治四十四年四月十日

有憐闋發行

此、前年六月、部長安部磯雄氏外十四人、選手ニ依リ決行サレタ早稲田大學野球部布哇遠征ヲ紀念セシガ爲、編著デ、本文二百三頁ノ中野球ニ闊スル記事八六十九頁、他ハ布哇ニ於ケル曰本人ノ産業及ビ勞働狀態等。

野球年報
(明治四十四年)

第九號

明治四十四年八月一日

野球年報編纂部發行

野球と學生

早稲田大學教授安部磯雄・押川春浪共著

明治四十四年十一月五日

廣文堂書店發賣

此、一年八月東京朝日新聞ニ依テ提唱サレタル「野球とその害毒」ニ對シ、敢然野球擁護ノ叫ビラ擧ゲタル有志ノ中安部、押川ノニ氏及ビ鎌田凌應義、藝々長・高田早稻田大學々長ノ意見ヲ輯録シタモノデアル。

野球虎之巻

橋戸頃鐵著

附 最近野球規則

明治四十四年十一月十日

運動世界社發行

前掲「最近野球術」ニ次グ氏ノ第二著書。附錄ニ大隈伯、黒岩周ニ、安部

磯雄、鎌田榮吉、高田早苗、長興又郎、福原文部次官、中澤臨川、大町桂
月及著者頑鐵生ノ、「野球害毒問題」ニ關スル駁論ヲ掲載セリ。

野

球

早稻田大學選手 伊勢田 刚 編

明治四十四年十一月廿八日

寶永館發行

著者ハ例言中ニ於テ

(略) 必ずしも之を以て斯道に造詣深き諸君の参考に供せんが爲めでは
ない。むしろ之によつて斯道に興味を持たる、初心者諸君の手引とも
なり得たい。云々

ト言ツテ居ルが決シテイ、加減ナモノデハナイ。

野

球

年

報

(明治四十四年度)

第十號

大正元年十月廿日

野球年報編纂部發行

故一等軍醫守山恒太郎君を悼む。一後進、他ニ飛田忠順氏ノ追悼記事アリ。
右ノ外、安部磯雄、福原文部次官、谷本富、坪井玄道、三宅大輔、高濱浅
、三神吾郎、以上七氏執筆。

(七一)

(八一)

野球奮闘史

米國クリスチーマシュー・ソーン著・日本・橋戸頃鐵譯

大正二年五月十四日

武俠世界社發行

史上最大ノ投手ト称セラル、紐育巨人軍ノ「クリスチ・マシュー・ソーン」
が快著「PITCHING IN A PINCH」ノ譯。恐テノ数多キ此種文献中最モ興味深
キモノ、一ナラン。因ニ原書ハ一九一二年紐育ニ於テ出版、巻頭ニ「大マ
ティーン」ノ肖像が掲ゲラニテキル。

野球技の研究

小泉葵南編

大正二年五月二十三日

野球界社發行

氏ノ第一著書。巻頭自序ノ一節ニ、本書編纂ニ付早大旧選手飛田忠順氏ニ
依リ多大ノ尽力ヲ與ヘラニタルニ對スル謝辞があり、附錄、河野安通志氏
、「野球試合見物法」ハ興味ト実益トヲ兼備シタ好讀物。

野球美談

東草水・有本芳水著 竹久夢二画

大正二年五月二十四日

実業之日本社發行

愛スベク榆スベキ好著。シミジト人、心ニ喰ヒ入ルヤウナ文ト、詩情豈

野球手引

野球界主幹 小泉三郎著

大正二年七月十五日

野球界社発行

「野球の創始と由來」以下、平易なる解説書。

野球秘訣

東京野球俱樂部編

附 最新野球規則

大正二年七月四日

大學館發行

編者東京俱樂部トハドウ言ノ國体デアル力判明シナイガ、此書ノ編著者ハ
専クトモ野球ヲ最モ文明的武技、武士的競技ナリトシ其ノ指導精神ノ下ニ
野球ノ普遍化ヲ企圖シタモノデアル事ハ緒論ニ於テ覗フコトが出來ル。

現野球規則

直木松太郎解説

附 試合記録法

BASE BALL RULES

大正二年十一月四日

野球界社発行

野球繪物語

小生夢坊著

(九一)

大正二年十二月一日

野球界社発行

い故

ナヨニアル。

此種文献中唯一ノ画集。画、文共ニ小生氏。「夢ニ」ノソレト異リ非常ニ「二
一モラス」十画トハ彩画總テ七十葉) 恐シク才氣走ツタ詩と文。夢ニノ題
画がアル。

野球年報

(大正二年) 第十一號

大正二年十一月五日

野球年報編纂部發行

編野球精通

馬場翠山著

一奥付には高木利八著とあり

大正二年六月二十二日

魁眞書樓發行

内外選手

球界 茶噛

小泉葵南著

竹久夢二裝幀

大正三年二月十三日

野球界社發行

奇話珍語五十六題。附錄ニ「大洗日誌」「試合の朝」「試合開始」「痛快

戰」「勝報」ガアル。

戀

勇豪語

押川春浪著

大正三年三月廿三日

九十九書房發行

快男鬼春浪唯一、論文隨筆集。學生及野球ニ関スルモノ多ク、殊ニ「僕等ノ野球時代」ハ明治三十年代ノ野球ヲ知ラントスル者ニトツテ不可缺ノ好文獻。

叢書野球打撃の巻（叢書①）伊勢田剛編

大正三年七月十八日

野球界社發行

叢書ノ一トアレド果シテ續刊サレタルモノナルヤ否ヤ；；不明。附錄ニ、曰下澤三、福長光藏、高瀬信郎、増田稻三郎、大村隆行ノ五氏執筆。

叢書野球講話
早稻田大學監督河野安通志編

大正三年九月廿日

野球界社發行

「ダイラス・カッブ」「フランク・チャンス」「エデー・コリンズ」「ハリス・スピーカー」等當時余國野球界屈指ノ大選手九氏ノ所説ヲ譯シタルモノ。附錄ニ編者ノ「野球の名手とは如何なる人か」外六篇ノ隨筆ガアリ、就中「野球界の恩人青井投手」ナル一文ハ訓ヘラル、處が夢イ。

(二二)

野球百物語

小泉葵南著

大正四年八月五日

菊屋出版部發行

同ジ著者ニ依ル「球界茶咄」ト同工異曲ノ球界逸話集。附録ニ「大投手の
悪戯」外ニ篇ノ軽イ讀物があり「紅緑狂史」（茗荷谷俱樂部）ノ序文ガア
ル。装禎ハ犬丸嶽支氏。

野球年報

（大正四年）第十四號

大正四年九月十二日

野球年報編纂部發行

明治三十五年ヨリ大正二年迄（廿九年度ヲ除ク）連年發行、球界ニ多大ノ
貢獻ラナシ來ツタ野球年報八本号ヲ以テ遂ニ発刊ベルコト、ナツタ。傳ヘ
聞ク所ニ依レバ、一運動具店ノ犠性出版トシテ可成軽カラザル貢擔デアル
タ所ヘ折モ折（朝日新聞社）ニテ「野球年鑑」發行、企アルラ開キ欣然之
ニ縛著ヲ委ネタノデアルト云フ。

野球の手引

大正五年四月十日 川上掬月著

矢島由進堂發行

大正三年八月十七日

野球年報編纂部發行

全國野球大會記録

山口信雄編

大正四年十月二十日

朝日新聞合資會社發行

野 球 年 鑑 第一號 (大正五年)

大正五年五月十五日

朝日新聞合資會社發行

先卷頭ニ「野球競技の變遷」、「野球の科學的研究」、「日本野球史」及び押川春浪遺稿「二十年前の野球」等ヲ掲ゲ、他ニ大正四年度ノ重ナル野球戦記録ガ收録サレ卷尾ニ「最新野球規則」ガ有ル。

現行野球規則 直木松太郎解説

附 解釋問題・試合記録法

大正六年一月八日改訂增補

野球界社發行

同ジ編者が明治四十三年十一月発行、大正二年九月改版ノモノヲ更ニ再改版發行シタノデアル。

野 球 年 鑑 第二號 (大正六年)

大正六年六月一日

朝日新聞合資會社發行

「最後の甲斐戦回顧」、「高三离・野球見物」等アリ。

(三二)

(四二)

新研究野球術

法学士 和田六灘子著

大正六年九月十八日

博文館發行

米國プリンストン大學コートチアクラーク氏、ユニオン大學コートチアドウソ
ン氏共著「ベース・ボールレガ骨子トシ更ニ米國及本邦ノ大家、先輩等ノ
意見ヲ參照編纂シタルモノ」。

野球の見方

清水秋雄著

大正六年十月一日

泰山房發行

本文其物ヨリハムシロ附錄ノ「早慶兩大學戰史」大村隆行氏ノ「初陣の心
持ち」菅瀬一馬氏ノ「僕の初陣」及ビ「人心」ト称スル短篇ガ興味深ク讀
マサレル。大正十年十二月ニ至リ求光閣書店ヨリ改版出ズ。

野球手ほどき

野球小泉葵爾著

附、術語早わかり

大正六年十一月四日

野球界社發行

前掲「野球手引」の增補改訂版。

野 球 年 鑑

(第三年) 大正七年度 朝日新聞社編

大正七年五月二十日

朝日新聞合資會社發行

少 年 野 球 術

糸井清治郎著

大正七年十月一日

松田尚友堂發行

著者は京都第一高等小學校訓導にして京都少年野球研究會の創設者。

運 動 年 鑑

(第四年) 大正八年度 朝日新聞社編

大正八年七月一日

朝日新聞合資會社發行

野 球 の 静 岡

山 口 宗 三 編

大正八年十二月一日

野球の静岡發行所發行

附錄、「庭球界」二十頁有り。其の大半八朝日新聞社主催全國中等學校優勝野球大會靜岡預選ノ記録。

野 球 ローマンス

小泉葵南著

(五二)

大正八年十二月十五日

實業之日本社總行

然テ九十四話（本邦球界逸話）附錄・「早慶四大學戰史」

布哇邦人野球史

後藤鎮平著

大正八年二月四日 小川市 布哇邦人野球同盟會發行

野球の起源及沿革、布哇野球短史、布哇邦人野球本史ノ三大項目ニ分ツ。五五二の大著、他ニ「日本最初の野球」ナル一項目アリ。

通野球新教範 小泉葵南著

大正九年三月五日

岡村盛花堂發行

野球の創始と共に由來、我國野球の変遷等。附錄「武輩はボールである」野球撰手の新兵さんハ興味アル讀物。

野球規則註釋

直木松太郎校閲・吉田興山註釋

大正九年十月一日

三田書房發行

毒ヲ携帶用ノ利便ヲ考慮シテ編マレシモノト恩ハル。袖珍本。外装有り。

慶應式野球戰術

ファン主著 吉田興山編

大正九年十月十五日

三田書房發行

三宅大輔、沼田敬男、吉川恭三、森茂樹、森秀雄、菅瀬一馬、平井卯之助、
松田恒政、腰本壽、高須一雄、佐々木勝壽、小山萬吾、直木松太郎、ノ諸
氏及吉田興山氏等、慶應義塾野球部関係諸氏分擔執筆。

野球の米國 林富平・木川正男共著

大正九年十一月廿三日

米國實業視察團發行

主トシテ米國職業野球、選手成績ヲ収録編輯セルモノ。口繪寫眞ニ「紐育术」
「ログラウンド」一兼收入。

野球小説 若き誇り 若木翠葉著

大正九年十二月四日 野球界社發行

野球小説六篇、野球隨筆一篇、野球脚本一篇。附錄、「全國著名學校野球部應
援歌」探錄。

(七二)

運動

之書

年

鑑

(第五年) 大正九年度

朝日新聞社編

大正九年六月十四日

新日本新聞合資會社發行

野球規則

小泉葵南著

大正九年

先進堂發行

編者未見。

新野球術初步

小泉葵南著

大正九年十月二十日

先進堂發行

野球戰術とその規則

在米原田種俊著

大正十年二月十一日

三友會出版部發行

ボーリスの見方

前野球界主幹 小泉葵南著

大正十年三月十五日

先進堂發行

運動は野球に限る、全國野球界人圖記、以下七項。附錄、茶目さんの旅、
人心、初陣の心持、僕の初陣。

野球技の科學的研究

ジョン・マグロー著・弘田親輔譯述

大正十年五月二十日

三田書房発行

原著者、豊富ナル体験記ニ加フルニ譯者、該博ナル引用例、説明ハ明治未
期ヨリ大正中期ヘカケテノ日本野球發達側面史トモ称スベキ貴重ナル文獻。

學初
野球手ほどき

小泉葵南著

附・術語早わかり

大正十年十月十日(十六夜)

野球界社発行

先ニ同シ著者ニ依ク著サレタル「術語詳解」野球手引」、増補改訂版。

ベース・ボール
How To PLAY BASE BALL

吉田興山著

大正十年九月十日

美津濃東京支店発行

米國野球遠征

早稻田大學野球部編

大正十年十月十五日

野球界社発行

此年三月渡米シタル早大野球部ノ部長安部磯雄氏、監督鶴田穂洲氏以下、
高松靜男、永野重次郎、石井順一、谷口五郎、有田富士夫、加藤高茂、田

(九二)

中勝雄、久保田積、大下常吉、松本終吉、久慈次郎、富永徳義諸氏、遠征紀行。外ニ早大教授ベニンホス博士ノ「旅程ニ萬哩」ガアル。

運動年鑑

(第六年) 大正十一年度 朝日新聞社編

大正十一年六月廿一日

朝日新聞合資會社發行

公式少年野球規則

大日本少年野球協會編

大正十年一月廿一日 大日本少年野球協會發行

初版ハ紙袋ナリシモ後ニ改版セリ。神戸版。

HOW TO CATCH (捕手の研究)

野球研究叢書 第一編

鶴城 橫井春野譯

大正十一年一月十五日 美津濃東京支店發行

「米國スボルデング會社編纂、日本著作權獲得」ト奥附ニ有リ。

HOW TO PLAY SHORT-STOPS (遊撃手の研究)

野球研究叢書 第二編

鶴城 橫井春野譯

大正十一年三月二十日

美津濃東京支店發行

HOW TO UNPIR.

美津濃發行

弘田氏、書目ニ見工、恐ラク業番ノ一ナルベシト思ハルレド、編者未見ノ
ノモノ故悉行年月日不詳。

ジ・インフキールド（野球叢書第三編）

吉田興山述

HOW TO PLAY
THE INFIELD
大正十一年四月十五日

美津濃發行

ジ・アウトフキールド（野球叢書第四編）

吉田興山述

HOW TO PLAY
THE OUTFIELD
大正十一年八月二十日

美津濃發行

日本野球發達史

横井鷗城著

大正十一年六月十日

美津濃東京支店發行

同ジ著者ニ依リテ前ニ発行サルシ「日本野球文」ノ増補版ナル由、著者が
序文ノ一節ニ見エ。弘田氏、書目ニハ「大日本野球文」トアレド編者未見。

自明治三十一年至大正十一年
日本野球年表

（第一卷） 球莊野人編

大正十一年八月一日

梨田社内・野球年報編輯部發行

(二三)

一高式野球

(運動叢書第二篇)

中野武二著

大正十一年九月五日

運動叢書刊行會發行

僅々八十余頁ノ小冊子ナレド純日本式野球観之巻トモ殊大ベキ好著。」曰
本の野球」「勝つたがが好い」の根本問題。「一高式應援」「一高式猛練習
ヒコーチ」「個人練習の要訣」等ハ不朽ノ好指針タルベシ。

野球歴史寫真帖

野球界社編輯部編

大正十一年十二月二十五日

野球界社發行

明治三十八年四月、早大ヲ一回渡ルヨリ大正十年秋期芝浦球場ニ於ケル三
田稻門戦ニ至ル約百頁ノ寫真帖。此ノ種資料トシテ稀ニ見ル編著。

野球競技の見方

三宅好雄著

(試合の見方)

大正十一年三月五日

東華書院發行

少年野球規則

大日本少年野球協會編

大正十一年

大日本少年野球協会発行

最新野球戦術

米國巨人軍監督ジョン・マグロー著　弘田観輔譯述

大正十一年五月十五日出版　三田書房発行

前掲「野球技の科學的研究」の改題。但し、何版より改題せしや不明。

最新野球戦術　附改正野球規則應用

支倉萬里・菊地慶畔共著

大正十一年十月十七日

鶴島書店発行

球界名選手諸家の体験苦心談あり。

最新野球戦法

大毎野球部編纂

大正十二年一月二十五日

大阪毎日新聞社発行

藤本壽・小野三千磨・森秀雄・懸山憲一、以上四氏が當テ「サンデー毎日」
誌上ニ掲載セルモノニ若干ノ增補訂正ヲ加ヘシモノ。高石義五郎・木下東
作・安部磯雄三氏ノ序文アリ。

少年野球教範

小泉葵南著

大正十二年六月五日

岡村盛花堂發行

野球マニスバットの響

安倍季雄著

大正十二年六月五日

大阪屋號書店發行

「早慶試合の復活」、「記念のバット」、「本壘打の教訓」、「大投手の腕力」、「癆瘍を襲んで」、「マ、サン譲次」以上六篇の少年野球小説を輯録。

野球の駆引常識篇

(運動叢書第五編)

近藤赤一著

大正十二年六月十八日

運動叢書刊行會發行

筆者ハ當時、東京日々新聞運動記者。因ニ、本叢書第七萬トシテ同シ著者ニ依ル「野球の規則附質疑問答二百題」ノ廣告アレド未見。

野

球

改造社運動叢書第三編

三宅大輔著

大正十二年六月三日

改造社發行

野球技の研究

小泉三郎著

大正十二年

野球界社發行

庄野氏ノ書目ニ有レド亦見。前掲大正二年刊同名ノ書ノ誤クニ非ザルカ？

改野球規則註解

早稻田野球後援團主將 支倉万里。菊池廣畔著

大正十三年四月十五日

網島書店發行

内容「野球規則註解」一九〇頁。「規則應用野球の秘訣」一七五頁。後者ハ雑誌「野球界」ヨリ輯錄シタルモノ。其過半ヲ占ム。

英澤和最新野球規則

小泉葵南解説

大正十三年四月十五日

先進堂發行

前付、筆者小泉氏ノ「文筆生活十五年ノ回顧」（編者假題）ハ一種ノ球界裏面秘史トシテ興深シ。

野球常識講座

小泉葵南著

(五三)

大正十三年四月二十五日

朝香屋書店発行

この頃の野球術（守備篇）スポーツ・ハンドブック第一編

小泉葵南著

大正十三年四月廿五日

朝香屋書店發行

この頃の野球術（攻撃篇）スポーツ・ハンドブック第二編

小泉葵南著

大正十三年五月二十八日

朝香屋書店發行

以上二書ハ前掲小泉氏著「野球常識講座」ト同一ノモノ。

ロマンス 第二野球 ホームラン 安倍季雄著

大正十三年六月二十日

大阪屋彌書店發行

著者ノ第三野球小説集。「魔球」「天下分目の戦」「主將の涙」「審判は神聖也」「太平洋を越えて」以上五篇収録。

打撃の秘訣

森秀雄著

大正十三年七月一日

大阪毎日新聞社發行

故松田恒政君

吉田興山・腰木壽編

大正十三年七月二十日

松田義美發行

空前ハ一名一壘手トシテ、同時ニ百米突竝走ノ日本記録保持者トシテ令名高カリシ前慶應義塾野球部主將松田恒政氏ノ追悼錄ニシテ、學歴、戰績、遺稿、書簡、批評、恩出、追憶、訃報、弔文、逸話又補遺收錄。

野球の語

(國民叢書第十六編) 小林篤里著

大正十三年九月二十五日

文藝社發行

投手としての投球法

谷口五郎著

大正十三年十月三十日

博文館發行

著者八田早稻田大學野球部選手、投手トシテ令名高カリシ人。附錄トシテ
若き投手の心得」レイ・シャルク。フ左リ利の利害と投手としての私の態度」合一
ウリヤム。「余が大リーグの投手となるまで」クリスティ・マッシエーン。
三篇收錄。

野

球

(小中學生運動叢書第一編)

近藤潤一著

大正十三年十一月二十五日

東京刊行社發行

同上著者ニ依リ前ニ發行サレシ「野球の駆引」ノ增補改訂版。

準標 野球規則解説

横井春野著

大正十三年四月十七日

白揚社發行

新最 野球戰術講話

佐々木一馬著

大正十四年一月廿五日

大盛堂書店發行

初學 野球手ほどき

小泉葵南著

大正十四年二月十三日

野球界社發行

「野球の創始とその由來」「わが國におけるその變遷」「わが球界の現状」等アリ。

早稻田大學野球部史

飛田穂洲 編

大正十四年三月三十日

明善社發行

草創時代ヨリ大正十三年秋期迄ノ記録ヲ集成セリ。畢ニ、一大學野球部ノ
部史タルニ止ラズ、一面日本野球發達史ノ重要ナル一部分。

運動叢書
第一編

野 球

大毎野球團主將 腹本 審著

大正十四年十月十二日

扶桑社發行

附錄「米國一流選手の經験談」トシテ「私の打撃法」ベーナルス。「私の走壘
法」と盜壘「タイ・カッス」。「打撃の秘訣」ロジャース・ホンスピー。「ベーナルス」と私の投
球レアーバン・ショットカー。「盜壘に就て」エディ・コリンズ。「私が體得した打撃の秘訣」タ
イ・カッス。以上六篇ヲ添ヘタリ。

日本体育叢書
第十六編

野 球

橋戸 信著

大正十四年十一月十五日

日思書店發行

野球閑話

橋戸信著

大正十五年六月十日

コズモス書院發行

「本書集むるところの閑話世九篇は著者が過去數年に涉りて雑誌、新聞などに執筆したもので（中略）云はゞ二十五年に涉る私の野球生活は、茲に一の繪巻物となつて讀者の前に提供されるのである」著者序文、一節。

大阪朝日新聞社主催

全國中等學校野球大會史（千九百廿六年版）

春日俊吉著

大正十五年七月十八日

向陽社發行

第一回ヨリ第十一回迄ノ簡單十経過ヘ試合ト「トーナルレガ集メタルモノ。

飛田徳洲、横井春野両氏ノ序文有り。

野球の見方と用語の解説

久保田 権・高久清一著

附野球規則

大正十五年八月五日

實業之日本社發行

野球主將になるまで 久松健一著

大正十五年十一月十六日

章華社發行

野球規則する人の野球の知識 森秀雄著

大正十五年七月十日

南海書院發行

野球規則問答集

横井春野著

大正十五年八月廿七日

行人社發行



補

遺

旧東京大學
三福

對（袖珍日本叢書第一編） 小谷保太郎編

明治三十六年六月十日

吉川弘文館發行

明治六年、東京開成校ノ頃ヨリ同八九年頃迄在學中ナリシ學生諸子ノ習癖、

(一四)

(二四)

趣味、容姿等數十項ニ分チ所謂名物男三擇對ナルモノが當時流行セシ由ニテ、其一項中「球玩好」トシテ、久米祐吉、高須錄郎・宇田川三郎三氏ヲ掲ゲ「暇さへあれば体操場に行つて球を投げて居つた方です」と記セリ。

察歌集

第一高等學校校友會雜誌第百三十八號外

明治三十七年六月二十四日

第一高等學校校友會發行

早稻田歌集

安部磯雄序 三堀國雄編

明治四十年四月五日

進文盟社出版部發行

寄宿舍日記

文學士中村柏林著

明治四十年六月十八日

晴光館書店發行

四月二十六日ノ項ニ「ベーチボール競技」ノ記述アリ。

米國見物

正岡藝陽著

明治四十三年二月二十七日

昭文堂發行

三九〇頁ヨリ四一〇頁二亘リ「ベースボール」ノ記事アリ。

學 校 歌 集 蘭 汀 書 院 編

明治四十三年三月一日 奉公會發行

各學校校歌ノ外特ニ早慶兩大學野球應援歌ヲ添ヘタリ。

趣 味 橋 山 健 堂 著

明治四十五年三月三日 寶業之日本社發行

九八頁ヨリ一二二頁ニ亘リ「今秋の野球選手」アリ。

慶應義塾歌集 竹久夢二著 梶尾幸次郎編

明治四十五年五月十四日 松本樂器合資會社發行

私學の三田生活 東 奥 達 人 著

大正四年四月十八日 斎文社發行

「體育部管見」ノ中、野球部記事百五十八頁ヨリ百八十一頁迄。『三田野球』

部の小沿革」及「早慶戦の初期時代」、「紛争を極めし三回試合」ハ好資料。

小野球光榮之勝利 安倍季雄著

大正四年六月一日

春秋社書店発行

此種、スポーツ小説、單行本トシテ恐ラク最初ノモノナラン。収ムル所、「光榮の勝利」、「月桂冠」、「鐵腕投手角倉忠夫」、「米爭霸戦」、「大遠征」及「野球と僕」(序文に代へて)、附録、肩除小説二編。著者、並々ナラヌ野球愛ト正義感ハ全紙面ニ躍動セリ。

向陵生活

獨生ケ岡草人著

大正四年七月十五日

彩虹社書房發行

「對三高野球試合」(四月)、「對外野球試合」(學習院・早大・慶大)、(五月)等アリ。

校歌口オマンス

出口競著

大正五年五月十八日

實業之日本社發行

早慶・一高等の應援歌口一マンス有り。

下町物語

喜多川浅次作

竹久夢二著

大正五年十二月十四日

保文社出版部發行

「下町つ子」ノ中ニ「ベーブボール」ノ一項有り。明治三十年前後ノ少年野球ヲ知ラントスルモノニトツテノ好資料。

早稻田物語

(學生々活葉書第4編) 赤木光二郎著

大正六年十月一日

東亞堂書房發行

「印象の断片」(對一高野球戦)アリ。

續校歌口一マンス

出口競著

實業之日本社發行

大正八年五月一日

三高野球應援歌アリ。

(五四)

向陵三年 山岡柏郎著

(六四)

大正八年八月四日

博文館發行

「敗戦」百三十九頁ヨリ百九十三頁ニ至ル五十四頁ハ所謂「何陵落日史」ノ一節ニシテ悲痛極リナキ敗軍ニ賊。但シ最後ノ三頁ハ、大正七年度ニ於ケル一高ノ全體ヲ讀ヘタル凱歌「歎念冠」。

慶應義塾
學生各河
三田う子になるまで 豊福生著

大正九年一月廿五日

三田書房發行

「早慶野球戦の中止の由來を論じて其の復活を望む」ノ一項有り。

林檎の花びら 安倍季雄著

大正十一年十二月二十一日 丁未出版社發行

少年少女小説集。全十三篇ノ中「紅白試合」ハ少女野球小説。

一高魂物語 藤巣聰平著

大正十四年七月二十日

博文館發行

「死か勝利か」 「イムドリ事件」 「校庭の猛練習」 以上三篇。 総テ血ト涙
ト、 感激ト死闘ノ高陵野球秘話。

全國大學・高等學校
及各學校著名校歌集歌集
和洋音樂普及會編

大正七年十二月六日 文樂館書店發行
一高野球部部歌。 三高野球部々歌。 四高野球部々歌。 六高野球部々歌。
早大野球應援歌。 廣應義塾野球歌。 以上收錄。

西北之黎明（早稻田生活） 吉川兼光著

大正十四年三月二十三日 文泉社發行
「強者の天地」ノ項中ニ、野球部ノ記事アリ。

校風漫畫 近藤浩一路著

大正六年九月十七日 博文館發行

シーツの應援。 よく泣く一高。 勝つ方がエヽ。 （一高）グリヽマイタホ
।。（三高）炬燵のキヤツチボール（四高）迷信小便の森。 肩屋の泰興さん。

(早大)ヘボ野次(名古屋醫專)等ノ野球漫画及解説アリ。

新野球理論研究 大日本野球研究會編

大正十四年七月五日

大日本野球研究會發行

早稻田學風 村松忠雄著

明治卅二年四月十五日

東京尋門學校出版部發行

「體育部」及「早稻田の地形及び學風レ中ニ・ベ・ズボール記事アリ。

北米の新日本 安部磯雄著

明治三十八年九月廿二日 淳文館發行

謹んで此書を早稻田大學野球選手一行を歓迎し多大の援助と獎勵とを與へ
たる在米同胞諸君に獻ずレト巻頭ニ著者ノ獻呈辭アリ。主トシテ太平洋沿
岸ニ於ケル同胞ノ經濟的發展狀態ヲ故國ノ有識者ニ傳ヘント企テタルモノ。

戸外遊戯法

丹羽貞次郎・室野義忠編輯

明治二十年十月三十日 (新潟) 精華堂出版

打球一名(ベースボール)トアリ、恐ラク前擧同名ノ書ヲ参考トシテ編輯ヒシモノラシク個々ノ名稱、方法等殆ンド某シキガ如シ。唯・邊僻ノ地ニシテ然モ此年代ニ此編著アルハ異數トスベシ。

遊 戲 法

白濱重穂・志々目清義・合著

明治廿七年七月廿四日

金蘭社發元

全國各縣ノ師範附屬小學校ニ於テ行ハレツ、アクリシ遊戲ノ種類ヲ收錄セシモノ。當時既ニ青森、山形、岩手、茨城、東京(高師附屬)、徳島等ノ諸縣ガ遅早ノコベースボールヲ獎勵施行セシメ居リシヲ知ル。



ベースボール

(改米遊戲術・第一編) 相田與三郎編纂

右ハ、中馬庚氏著「野球」第八版(廿五年十月一日發行)廣告欄掲載ノモ

(〇五)

ベースボール

青井鉄男著

美満津商店發行

右ノ書ハ昔テヘ野球年譜ナリシト覽エヽヽ、卷刊ヲ知リタルニ依リ著者タル青井氏ニ質シタルトコロ「斯界ノ發展ヲ企圖シ、美満津ノ商品ニ添ヘテ無料領布セシモノ、僅々六七十頁位ノ小冊子ナリシレト」返書ニ接セリ。編者所藏ノ一書ニ「ローランテニス」ナルモノアリ、青井氏著、美満津發行、四六袖珍七十六頁ノ小冊子ニテ奥附ニ定價ノ記載ナキヨリ考フルニ恐ラク無代添布品ラシク、之ニ依ク推察スルニ前記「ベースボール」ノ体裁モ概不之不等シキモノナリシナラン。



遊戯全書

仙鄉學人・霞城山人・太華山人・合譯

明治廿二年四月一日御届 少年図出版部發行

翻訳、ワクネル氏著「童子の遊戯」ノ抄譯。全十七章ノ内、第六章、「球戯の部」ニ「自由術ありの越レナル一項アリ、即チ「ベースボール」ノ譯

語ナリト思ハル。但シ競技法中稍不可解ノ矣アリ、或ハ一部ノ論者が所謂
「ベースボール」ノ根深ナリト称スル「ラウンドース」ニ非ルカ、疑向ト
スベシ。

少年野球秘訣と規則

高橋 信著

大正十二年十月廿五日海版 小島文園堂發行

本文二百五頁、口繪写真二葉。表紙圖案ト等シキ外裝付。大阪版。

少年運動叢書

野球のやり方（守り方の巻）

小泉葵南著

少年運動叢書

野球のやり方（攻め方の巻）

小泉葵南著

大正十四年四月一日 研修社發行

第一編本文百六頁、第二編本文百頁。口繪写真各八頁。

ボーラー遊び

乙訓飼助・石橋藏五郎共編

大正二年八月十九日

藝眼社發行

(二五)

全八十五種類ノ「ボーラル競技」中「ベースボール」ノ解説廿八頁。

茶目さんの旅日記 小泉葵南著

大正七年五月二十八日

河野出版部発行

「野球コ一チの巻」あり。

各種學校運動會競争遊戲全集 教育資料研究会編・高木菊治郎編

明治三十七年三月十六日 集英堂發行

三五判。競技七十二種目ノ中ニ「ベースボール」有り、ヘ全二十頁。初心者ノ爲メニ編マレタルモノナレド「ルール」其他ニ稍イカハシキ箇所マリ。例ヘバ「投球所」即チ「ピッチャース」ア「フレート」ヲ、長サ五呪六時隔四呪ノ「ボンタスレトセル始キ」、「デッド・ボール」ノ定義ヲヘビツチヤーのなげたボールが、バッター弱はアンペイセーの身體にふれ、又は偶然バットに當つたときをいふのである一等ノ如キ其ノ一例ナリ。

運動競技の研究

寅瀬謙三著

大正十三年四月三日

東都書房發行

ベースボールの部三十三頁。他に、米國野球の話、極東選手權競技大會の話等。

鉛筆だより

横山健堂著

大正三年六月十八日

春陽堂發行

隨筆集。「ボア天遠征記」あり、町ちボアラ俱樂部及天狗俱樂部合同の肉西遠征記なり、巻頭に中川八郎氏描くところの「健堂君のバッテングぶり」及満谷國四郎氏の筆に成れる（豊中原頃始球式の圖）あり。

現代娛樂全集

晴光館編輯部編

明治四十三年十二月廿五日

晴光館書店發行

ベースボールへ野球一一〇六五頁より一〇八二頁迄十八頁・圖解入り。

(三五)

(四五)

学生生活
バンガニア日記

松田彗星著 (前後編二冊)

大明治四十三年二月二十一日

全 三月十八日

千代田書房發行

全三百六十日の學生生活記録。野球練習の記事あり。

子規居士と余

高濱虚子著

大正四年六月二十五日

日月社發行

序頭ニ子規居士が松山城北練兵場ニ於ケル「バッテイング」ノ追憶記事アリ。

最新野球規則詳解附スコア記入法 飛田總洲著

大正十四年四月十五日 忠文堂發行

(二)の註解は友人内藤楠夫君が、米國規行規則を極めて誠實に譯出されたものに私が註釋を加へたものである。云々著者はしがきの一節。

表 誤 正

序一	序二	三	二	一	七	八	六	二	十二	十一	行	頁

やうになると
不満な臭き認める、
興味多キモノ。
十有年ノエシキニ亘リ
黒岩周二

「日本最初の野球」
勝つたがが好い
少年野球規則

大正十一年大日本野球協会発行

誤

正

やうを頃になると
不備な臭き認める、
興味深キモノ。

十有余年ノ久シキニ亘リ
黒岩周六

「日本最初の野球」
勝つた方が好い

重複二付三行抹殺

編者未見

昭和十四年八月廿六日・五

拾部限印行（非賣）

第參／號

東京市豊島區池袋三一三八一

齊藤三郎